

令和8年度 第1回山口県総合教育会議 会議録

1 日 時 令和8年9月2日（水）15:30～17:00

2 会 場 山口県庁4階共用第1会議室

3 開 会 （事務局）

4 知事挨拶

開会に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

教育委員の皆様方には、平素から本県の教育行政の推進に多大な御尽力をいただいていることに対し、改めてこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

また、本日は御多忙の中、御参集いただいたことに感謝申し上げます。

先般、私は、令和10年に本県で45年ぶりに開催される全国高等学校総合文化祭山口大会の実行委員会設立会に出席した。

大会に向けては、準備段階から、県内の多くの高校生が企画運営に参画することとなる。

こうした機会を通じて、高校生の皆さんが山口県を多角的な視点で捉え、郷土に対する誇りと愛着、いわゆる「やまぐちPRIDE」を育むとともに、豊かな感性や創造力が培われ、自身の成長につながることを大いに期待している。

県では現在、今後の県政運営の指針となる新たな総合計画「やまぐち未来躍進プラン」の策定を進めているところであり、このプランの骨子案では、「成長と安心の好循環」の創出による新たな県づくりを基本方針とし、持続的な「成長」を生み出す産業力の強化と、人生100年を支える「安心」の確立を政策推進の2本の柱としている。

さらにその柱の下に設定した、12の「成長・安心プロジェクト」の中の一つに、人づくりを推進するプロジェクトを設け、本県の未来を創る子どもや若者のふるさと山口への誇りと愛着を育み、地域づくりや県内の様々な分野で活躍することのできる人材の育成に取り組むこととしている。

こうした取組を推進していくためには、教育委員会と知事部局がそれぞれの役割を果たしながら、緊密に連携していくことが不可欠である。

両者が一体となって、本県の未来を創る人づくりの取組をさらに充実させていくことができるように、引き続き御協力をお願いしたい。

本日は「令和8年度の重点取組方針」の主要関連事項の取組状況を御報告させていただくとともに、来年度の「重点取組方針」の案についてお諮りすることとしている。

また、教育委員会から、「高等学校教育改革の推進」と、「学校における働き方改革の推進」について説明、報告をいただくこととしている。

委員の皆様方には、本県の人づくりの取組のさらなる充実に向けて、忌憚のない御意見、御提案を賜るよう、どうぞよろしくお願いしたい。

5 議事概要（議事進行：知事）※委員発言：● 事務局説明等：○

- （１）令和８年度重点取組方針主要関連事業の取組状況について
- （２）令和９年度重点取組方針（案）について
- （３）高等学校教育改革の推進について
- （４）学校における働き方改革の推進について

○事務局から別添資料に沿って説明。

●和泉委員

説明をお伺いして、非常に広範囲にきめ細やかな施策を作っていたいていると思っている。

子育て支援、学校教育の質の向上、不登校対策、地域連携教育の推進、人材育成、教育環境の改善など、様々な方面・分野にわたってきめ細かに、山口県の教育が抱える様々な課題に対して、従来からの取組に加えて、さらに一步踏み込んだ先進的なアプローチもふんだんに盛り込まれた計画を、令和８年度、令和９年度にかけて作成し、またこれから詰めていこうという、そういったふうに理解させていただいた。

これらの計画の立案に携わった皆様が、強い熱意と、ある意味危機感を持って、この計画を練り上げられたのではないかと思っている。それがひしひしと伝わってくる計画、内容だった。

また、単に新しい取組を導入するだけでなく、教員の働き方改革（ウェルビーイング）の両立にも配慮がなされており、非常にバランスのとれた、持続可能な計画になっているのではと思った。

その中でも、特に今回着目して期待したいのは、生成ＡＩの活用で代表されるようなＩＣＴの活用、デジタル技術の活用である。例えば、生成ＡＩの学習システムの導入などもあるかと思うのだが、子どもたち一人一人に合わせた、個別最適な学びを真の意味で実現するためには、どうしてもそういった生成ＡＩなどの活用が不可欠になろうかと思う。

これからの時代を生き抜く生成ＡＩの活用、新たな課題を解決するために活用するということも含めて、今後の教育現場に先進的に導入することが、極めて重要であると考えている。

また、そういったデジタル技術、ＩＣＴ、生成ＡＩ等の活用・導入は、教員の業務の効率化や負担の軽減にも、非常に重要な切り札になるとも思う。働き方改革を加速するためにも、一層の努力、積極的な導入を進めるべきと思っている。その成果を大いに期待したい。

そういった計画ではあるが、この素晴らしい計画を絵に描いた餅に終わらせないためには、表面的な進捗状況の確認に留まらず、子どもたちにとって何が大切で必要なものか、現場の教員が本当に働ける施策はどうか、という原点に立ちながら、現場の状況や声を大切にしながら、施策の具体化と実効性の検証を絶えず行っていただくことが重要かと思う。

今年度後半の計画の遂行や、令和９年度に向けての立案に活かしていただけたらと思っている。

また、高校改革のほうだが、新しい時代に対応した先進的なカリキュラムを各高校で導入していくということがこれから必要になるわけだが、生徒の主体性を引き出せる教員の力量というのがまた必要になってくる。また、説明の中

にもあったが、専門高校、専門学科を中心に、先進的な設備、インフラの整備ということももちろん必要になってくる。そういった人的な支援、あるいは設備等の支援も、目に見える成果を示すためにも、スピード感を持った予算と人的な重点支援が求められると思うので、どうぞよろしくお願いしたい。

それと、働き方改革のほうだが、年々数値がこれだけ下がっているという説明があった。大変すばらしいことだと思うが、まだまだ過度な負担が、イメージ的には、世間にも広まっているのではないかと思う。その影響もあるのか、教員採用試験の倍率もなかなか上がってこない。

大学生の中には、そういったことを懸念する人もいることも事実である。そういった意味で、教員の確保というのは本県の持続可能な教育を揺るがしかねない重大な問題だと思うので、そういった意味からも、より教員でなければできない授業や生徒指導に集中できる環境を、これから作っていただくように、働き方改革の計画を実行していただければと思っている。

学校だけでは解決できる問題だけではないと思うので、保護者や地域の方の理解の促進も含めて、社会全体で先生たちを支える仕組みへのシフトというのが、今、求められているのではないかと思う。

●村岡知事

生成AIがどんどん発展しているので、うまく教育に取り入れていくことで、個別最適な学習によりできなかったことができるようになってくると思うので、その努力は教育庁のほうでもやっていただいていて、是非どんどん進めて欲しい。

一方で、これをうまくコントロールしていかないといけない。非常に良い面と負の面があると思うので、これからよく考えて使っていかなければいけないと感じているところ。

また、計画のPDCAをしっかりとやらなければという趣旨だと思うが、しっかりと良い計画を作って、それが子どもたちのために活きるようにやっていかなければならない。

高校の整備についても重要だと思っている。しっかりと予算面でも取り組もうと思っているところであり、良い高校教育ができるように努力していきたいと考えている。

●木阪委員

和泉委員が、総括的にお話されたので、私の方は9ページ「やまぐち創生！「地域の創り手」育成推進事業」についてお話したいと思う。

いろんな事業を進めていかれる中で、学生たちが主役となって取り組むものが、着実に広がっているということを大変心強く感じている。

今回、以前から「やまぐちPRIDE」というワードが、非常に気になるワードであるわけだが、より一層このワードの頻度が高まってきているという感じがある。

私の勉強不足かもしれないが、「やまぐちPRIDE」が、今、合言葉とか理念とか心意気的な感じのワードであり、「やまぐちPRIDE」の、例えばロゴマーク的なものであったりとか、「やまぐちPRIDE」のカラーとか、そういったものが、もしまだなければ構築したり、シンボル化していくということも

面白いのではないかと思います。

今回、この（全国高等学校総合文化祭の）ポロシャツを着ているが、このポロシャツのデザインも高校生が考えたというのもあるので、そういった2028年のイベントにも乗じながら、マークやポーズのようなものを、若い方々に考えてもらうことも、とても大事ななことかと思う。

また、資料の中にはないが、この10月からディスティネーションキャンペーンも行われる。観光とそういった「地域の創り手」というのは、個人的には非常に相性が絶対良いといつも思っているので、県外から山口県にたくさん来ていただくということはもちろん大事なのだが、県外にいる、暮らしている、もちろん我々であったり、学生であったり、生徒たちが、同じ県内でも回遊をしていくことは、「やまぐちPRIDE」の醸成にも大いに寄与するものと思っている。外から見た自分たちの場所、そういったことを俯瞰してみることができると思うので、こちらのほうも大いに期待をしているところである。

繰り返しになるが、「やまぐちPRIDE」、こちらのワードを大切に育てて、県民誰もがすぐ出るような言葉としても、色としてもイメージできるような、そういったものになれば良いと思っている。

●村岡知事

木阪委員さんには先日、県の総合計画を作ったり、生かしていくための意見交換会「どこでもトーク」に御出席いただき、柳井地域のいろいろな御意見をいただいた。

その際にも観光の話があったと思うが、地域の誇りを持つとか、若い人たちが自分たちの地域のことを知って愛着を持って、またそこで頑張っていこうと思う上で、観光と非常に密接につながっているところがあると思う。そうしたものとうまく結びつけながら、子どもたちの地域への愛着であるとか、「やまぐちPRIDE」の醸成ということにつなげていくことができれば良いと思った。

（木阪委員がやっておられる）「いいね、いいね、やないいいね。」は非常に柳井地域でも県内でも広まっている。「やまぐちPRIDE」も、分かりやすく発信できるような形で伝わると、より広がっていくのではというところ。

●藤田委員

まずは、熊本地震の発災後に早い段階での被災生徒の受入れなど、支援を表明されたことについて、とても素晴らしいことだと思う。感謝申し上げる。

今回は、いろいろテーマがあるが、山口県の教育を受けた子どもたちが、10年後、20年後、社会で生き生きと活躍できるだろうかという視点で資料を拝見させていただいた。

重点取組方針とか主要関連事業も様々な施策があって、どれも素晴らしくて、どれも優劣付け難いと思った。

また、民間企業人としては、12ページの「やまぐち若者サードプレイス創出事業」が、非常に何か面白い試みだと思っている。実施が7月からで、まだ取組が始まったばかりだろうと思うので、今後の展開を非常に楽しみにしている。

また、その下にある「若者と県内企業のつながり創出事業」も、民間企業人としては非常にありがたい施策だと率直に思った。様々な仕事や企業を知って

もらうことはもちろん大事だが、中学生とも関わっていると、なぜ働かないといけないのか、働くことの意義などを、考えてもらえる場となれば良いと思う。

これからの人口減少を考えると、一人でも多くの人が社会と関わって、助け合っていないといけないと思う。高校でも探究の授業などで、地域課題に取り組んだり、こうした様々な体験を通じて育つ子どもたちは、自然と利他の心が養われて、山口県の未来を明るくしてくれると私は信じている。

私自身が採用活動をして、若い世代と関わっていく中で少し感じていることが、これはリクルート関係の情報でもあるが、コロナ禍に学校生活、学生生活を送った子どもたちは、人とコミュニケーションを取るのが少し苦手な子の割合が増えている傾向があると言われている。実際に、私もそれは体感しているところでもある。

ということは、やはり人との関わりが、人格形成や社会に出てから、非常に大きな影響を与えることの証明でもあると思っているので、今の児童生徒の皆さんには、人と関わることの大切さをしっかり学んでいただきたく、またそういった場を、これからも県のほうからも発信し続けていただけたら嬉しく思う。

また、令和9年度の重点取組方針にも、人のつながりというところに軸足を置かれているので、これも継続していただき、今後の展開に期待をしている。

最後に、私は教育委員をして3年目だが、自分自身も山口県民の一人として、こういった県の施策で素晴らしいものが展開されているので、もっと周りの方に周知して、私自身も含め、山口県の皆で子どもを育てる意識を持つように働きかけることも必要だと思った。

●村岡知事

知事部局での取組でも、若い人たちの第3の居場所というようなものを作っていく。これは子どもの小さい時もそうだが、ある程度成長して、高校生や大学生であってもやはり必要なものだと思って取組を進めているし、サードプレイスもそういった趣旨でやっているものである。

それから、若者が県内企業とのつながりを作っていくことも重要。県内の企業を知らないまま、就職の時期を迎えるということが非常に多い。大学では就職フェアなどのイベントをやっている。就職間近になって考えていく段階ももちろん大事であるので、そこに力を入れてやっているが、もっとそれぞれの段階に応じて、小学校、中学校、高校の段階でやっていく。「こどもシゴト博」というイベントを開催して、仕事についての興味をまず持ってもらい、県内企業のことでも知ってもらうということもあるが、仕事ということについて最初に自分で考えていくとか、何か楽しみがそこにあるのかなということを知るきっかけになると思う。こうしたことを小学校の段階から行ったり、また中学校でも実施している。地道なことであるが、こうしたことが長期的に見ると重要なことだと思っている。あらゆる段階、あらゆる手立てでこれからもやっていきたい。

最後に話された、人と関わることはやはり大事だと思う。コロナ禍の特殊な環境でいろいろと影響があるということは、様々な研究もされているところだと思うし、そのようなことも踏まえて施策を考えていかなければいけない面も

ある。人と関わることで人格形成であったり、社会や自分について考えるなど、いろんなことにつながっていくので、そういった場づくりというものを意識して進めていくことが大事であることを改めて思った。

●廣兼委員

本年度も、子どもたちの教育のために、充実したたくさんの事業に取り組んでいただき、感謝申し上げます。

私には、小・中・高に通う子どもがいるが、その中で思うことが二つほどある。

学校への行きづらさを感じている子どもも、自分も学びたい、高校にも行きたい、大学にも行きたい、皆と一緒に授業を受けたい、でも、学校に行くのは怖い、行ったら一生懸命やって、もう限界を感じたら帰りたい、そういう日々を送っている。やはり、全ての子どもたちには、学ぶ機会が平等にあると思うので、そういった方々の子どもの声、保護者の声を吸い上げて、学べる機会というものをたくさん作っていただきたいと思います。

もう一つが、「学校における働き方改革加速化プラン」の中で、業務の役割分担というところなのだが、これを見るまで、先生方がここまでされているということを実感していなかった。これくらいしてくれるのが当たり前だと思っていて、この役割分担を、もっと教職員以外、地域や家庭に振ることで、先生が本当に子どもと関わる、子どもと触れ合う時間が増えれば、子どもたちも笑顔になるし、先生たちも楽しくできるし、子どもに深く関われることで、例えば一つ問題が解けた、分かった、楽しい、それで自分で学ぶという姿勢が生まれてくると思っている。

好事例のほうにも、学校運営協議会やPTAなどと協力してというのがあるので、子どもが減っている状況、学校の数が変わる、いじめ、不登校等いろいろな問題はあるが、今だからこそ子どもたちにできるということが何かあると思うので、今後もこの事業を進めていって、保護者のほうも協力するので、子どもたちのために一緒に頑張っていきたいと思う。

●村岡知事

子どもたちが学ぶ機会、学びたいと思っている機会をできるだけしっかりと叶えられる環境づくりということは大事だと思う。

そのため学校でもいろいろな努力をされていて、一人一人に対しての対応もされているのだと思うが、子どもとの関われる時間を増やすような取組が基本的に必要で、そうすることで一人一人の願いや思いが叶えられるような形につながっていくと思うので、働き方の改革も一層重要だと思うし、一人一人に寄り添った対応というのが必要だと思う。午前中の（別の）会議で、下関市に「学びの多様化学校」があるという話が出た。多様な子がいるし、それぞれ学んできたレベルも違ってきているので、そういったことにきちんと対応できるような学校だという説明で、それがもっと広がると良いという意見があった。やはりいろんな学校との関わり方の中で、生徒の多様性や状況に非常に大きく幅があるのだと思うので、それに応じた一人一人をきめ細かく見る部分と、そうした学びの場所というのは、あったら良いと感じた。

●繁吉教育長

まず、知事には冒頭の挨拶の中で、令和10年度の全国高等学校総合文化祭に触れていただき、感謝申し上げます。

今日、教育委員皆で、揃いの（全国高等学校総合文化祭の）ポロシャツを着て参った。知事には、こちらをPRの時に着ていただければと思う。

（知事にポロシャツを手交）

缶バッジも作っているので、またPR、御支援をいただくよう、よろしくお願い申し上げます。

それでは、県教委からは、提案のあった令和9年度の重点取組方針、こちらに沿ってしっかりと取組を進めてまいりたいと考えているが、本日は、その中で主要な取組に関して発言をさせていただく。

冒頭、新たな総合計画「やまぐち未来躍進プラン」について発言をいただいているが、県教委では、この新プランの骨子案において、施策推進の2本の柱のうちの一つ、人生100年を支える安心の確立に向け、「やまぐちPRIDEの醸成」、それと「魅力ある県立学校づくりの推進」、こちらを掲げている。

こうした中、県教委では昨年度から、先ほど木阪委員のお話の中にもあったが、ふるさと山口の未来を創る心意気、これを「やまぐちPRIDE」という合言葉で表して、学校、家庭、地域、産業界等の連携協働体制を一層充実させ、体系的、系統的なキャリア教育を推進することで、主体的に地域の未来に貢献する人材の育成に取り組んでいるところ。

また、先ほど事務局の方から説明もあったが、2040年を見据えた国の「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）」を踏まえて、このたび、山口県高等学校教育改革実行計画、こちらの骨子案を公表したところであり、県立高校の教育活動や教育環境、こちらをさらに充実させ、入学したい、学びたいと思える学校となるよう、特色化、魅力化に向けて取り組んでいきたいと思っている。

こうした取組を進めるためには、事務局をはじめ、関係機関との緊密な連携が不可欠となってくることになるので、引き続き、本県教育の振興に対する御支援、是非ともよろしくお願いしたい。

●村岡知事

やはり高校の魅力を高めるということをさらに力を入れてやっていかなければいけないと思う。

高校無償化になり、私立高校の関係もいろいろ変わってきているが、少子化も進む中で高校の魅力を高めていくということが大事だと思うので、それぞれの高校でこういった特徴を伸ばしていこうということを教育委員会のほうでも考えておられると思うが、是非しっかりと行っていただきたい。

あとは、県内にしっかりと定着し、県内で頑張ってもらうことを結び付けるために、県内企業のニーズとをしっかりと踏まえてやっていただきたいと思うし、それに合った教育環境が整うようにしていかなければいけないと思う。

国のほうで、特に実業高校には力を入れて、施設や設備を強化していこうということがあり、予算はたくさんあるけれども、なかなか思ったようについていないことから、結構我々の思いとは違うような形の検討なり採択がされているところがある。いずれにしても、特に施設面・設備面では重要なところがあ

るので、国の財源もしっかり活用する努力もしながら、県としても力を入れてやっていくことが未来の人材づくり、地域づくりにつながっていくと思うので、教育委員会のほうともいろいろと意見交換をさせてもらいながら、充実させていく方向でしっかりと取り組んでいく。

●村岡知事

それではまだ時間があるので、ここからは自由に発言をいただけたらと思う。

●和泉委員

先ほど廣兼委員からもあったが、子どもたちの中には不登校や、学校で学びたいがなかなか行きづらいという子たちが、年々増えている傾向にある。

そんな中で、令和8年度計画も含めて様々な計画・施策があるわけだが、それは、突き詰めれば子どもたち一人一人の広い意味での学力、生きる力を育んでいくために役立つということにならなければいけないと思っている。

そうすると、やはり一人一人の子どもたちの理解度を、義務教育から高校、専門学校であろうと普通科であろうと、それぞれの段階でそれぞれ学ぶべきことがちゃんと身に付いているかどうかということが大切。教員からするとそれをきちんと身に付けさせるような教育ができていくということが重要になる。

個別最適な学びという掛け声は良いが、先生のマンパワーだけでは無理なので、そういう意味では生成AI学習システムというのが必要になるのかなと思う。

民間の塾などで活用しているような生成AI設定やシステムなどだと、学年にとらわれずに、学ぶべきことを遡って分からないところまで、生成AIが適した問題を出してくれて、子どもたちが学べるような環境を作る。生成AIをうまく活用していかないと、これからますます難しくなってくると思う。

大学生を見ていると多様性が増えれば増えるほど、大学生になって、授業についていけないという学生が増えているような気がしている。そうすると、先々でその人が困ることになるので、着実に理解付けするということを大切にしていってほしいかと常々思っている。

日本で義務教育での留年はないと思うが、フランスやオランダだと2割ぐらい義務教育の間に留年がある。それらの国の一般の人々（国民）は、それはいいことだと思っている。その子が適切なマッチングによって、分からないまま進むよりも、ちゃんと分かったら次に行くというのが、いいことだというふうなコンセンサスができていく。しかし、日本ではそういうわけにもいかないので、そうであるからこそ、より確実に（分からない子どもを）見付けて、高学年や次の段階に進むというところを、先生方にしっかり意識していただいて、生成AI・デジタル技術なども活用しながら、働き方改革で授業に集中できるような環境を作ることがまず前提になると思うが、そういった形で進めていただくことがこれからますます必要になると感じている。

●村岡知事

そうだと思う。やはり学びの状況からいろいろと学校に行きづらかったり、あるいはちょっと付いていけなくなったりと差が出てきても、小・中学校の場合、どんどん進んでいく。午前中の会議の話をも少し触れたが「学びの多様化学

校」での例に挙げたのは、下関市で何百人という不登校児童生徒がいて、小学校5年生でも掛け算はおろか、足し算も指を使ってやっとできるような感じ状況の子が、同じ授業を受けるといって無理なので、そういったところで「学びの多様化学校」があると良いという話があった。

確かにレベル差がどんどん広がっていくと、一人の先生が同じレベルで教えることは難しいと思うので、いろんな力を使って底上げをしていくということで、生成A I というのも一つの方法だと思う。

もちろん教員の方々の負担を減らしたり、配置を増やすことが一番良いのかもしれない。がそれでもやはり、個別にあまり差が多様化しすぎると、難しいと思うので、どんな方法がこれからできるのかということは、頭を柔軟にして考えないといけない。

●廣兼委員

教育に直接は関係ないかもしれないが、子どもたちが学校で行う避難訓練のことなのだが、今、日本では豪雨災害が非常に増えている。学校現場を實際は知らないのですが、もう既にされているかも知れないが、地震や火災の避難訓練や大雨のときの避難、知識など、そういった防災教育もこれからは必要ではないかと思う。

●村岡知事

それぞれでやっている。保護者への引き渡しの訓練などは結構やっていて、ハザードマップもあって、以前と比べて恐らくかなり実施していると思う。それで十分かどうかというのはあると思うが。

学校でも、そういったところは大事なのでやってもらっていると思うが、一方で、授業とのバランスがあると思うので、それをどこまでできるかというところはあるが、それでも感覚的には以前と比べると、充実していると思う。

●繁吉教育長

子どもたちに事前に知られない形で実施することもある。

●村岡知事

そのように抜き打ち的にやるということも大事。どうやって冷静に避難できるか、きちんと適切に行動できるか。

●廣兼委員

自分の子どもの学校では、年度の最初に書類で誰が引き渡しに来るかを知らせている。年に1回は引き渡し訓練をしている。中学校でも免許証を提示しないといけない。土地柄そこまで災害がないのでどこまで本気か分からないが、結構保護者が参加している。

●木阪委員

暑さ対策について、空調ももちろんだが、なかなかお金のかかること。遮熱シートというものがあり、風は通るが、それを掛けることによって、直射日光をかなり遮って、室内の熱も下げるといって物があるので、大きな工事など予算

が付かないときに割と簡単にできるので、これから暑さがとても厳しい時代が続いていくので、そういった対応も良いと思う。

●村岡知事

暑さは異常だと言いながらもう毎年異常になっているので、これからもこれが基本になると思っていかなければいけない。学校も空調を整備されているが。

私が小学校の頃は、プレハブの校舎だった。第二次ベビーブームのピークの頃で、校舎が足らなくてプレハブがとても暑くて、冬はとても寒くて。しかし、その頃に比べても、恐らく今は本当にエアコンがないと大変な暑さだと思う。

あとは、やはり暑い時期は外で遊ぶことが難しくなっている。子どもの体力づくりにも影響する。ほとんど夏場に外で遊ぶ子どもを見かけない。どうしようもない面があるが、熱中症を防ぐのはもちろん、できるだけ、いろんな面で快適な環境を整備していかないといけないと思う。

それでは、「令和9年度重点取組方針」について、本案のとおり進めていくこととして、よろしいか。

（委員から「異議なし」の声や頷きの反応あり）

それでは御意見を十分に生かして、今後の事業の推進、また施策の構築を進めてまいりたい。

●村岡知事

私のほうから、この機会に提案したいと思っていることがある。学校が有する児童生徒の個人情報の管理等について提案したい。

山口市内の中学校に通う、ある生徒に関する個人情報が、学校外の第三者に伝わる事案があった。その情報の中には、学校での出来事や生徒が教員に心の内を伝えたその内容、生徒が教員に伝えた生徒の親族の機微情報、生徒の保護者が学校に伝えたとされる内容や生徒の小学校時代の機微情報などが含まれていた。

また、こうした情報の中には、事実関係が十分に確認されていないものや事実と異なるものも含まれていた。

どのような経緯でこうしたことが起きたのか、学校・市教育委員会・県教育委員会に確認をしたところ、説明内容が一貫しておらず、組織間で食い違いが生じており、学校から市教育委員会、市教育委員会から県教育委員会への範囲の情報がどのように把握され伝達されたのか、またどのように外部に情報が伝わったのかについては、未だ明らかになっていない。

児童生徒のプライバシーが守られることは、子どもを安心して学校に通わせるための基本的な前提であり、学校や教育委員会への信頼にも関わる話だと思う。

情報が外部に漏えいした場合の対応について、この機会に考えていただきたいと思うわけであるが、私も全てを把握しているわけではないが、県教育委員会では「学校における個人情報の適切な管理について」というマニュアルを定めていると承知をしているが、これはあくまでも個人情報漏えいしないためのマニュアルであり、漏えいした場合の対応についての記載は特になく

ある。

この事案も踏まえて、今後同様の事案が発生した場合に、誰が何をどのように調査をし、どのような措置を取るべきかなど、基本的な事項をあらかじめ定めておくことが必要ではないかと考えるので、検討をお願いしたい。

さらに、学校・市町教育委員会・県教育委員会の間で、児童生徒の個人情報共有の際のルールの特明確化についても検討をお願いしたい。

もちろん、学校・市町教育委員会・県教育委員会の連携は重要であり、必要な範囲で情報を共有することが大切であることは認識をしている。

しかしながら、この事案では、必ずしも必要性が明らかでない極めて個人的な情報まで共有されている。

学校から市町教育委員会、市町教育委員会から県教育委員会へと情報が伝わる場合、情報の提供先は提供元に対して、指導・監督する立場にある。

そのため、情報の提供元である学校や市町教育委員会が、この情報まで提供する必要があるのであるのだろうかとの疑問を感じたとしても、立場上その疑問を率直に伝えたり、提供を断ったりすることが難しい場合があるのではないと思う。

そのため、情報共有の必要性を確認するためのルールがあることが望ましいと考えている。例えば、学校や市町教育委員会から個人情報の提供を求めたときには、情報の提供を求める側が、なぜその情報が必要なのか、誰が何のために利用するのか、どの情報まで必要なのか等を明確に説明して、提供する側もその必要性を確認した上で提供するといった基本的な手順を決めておくことが考えられないか。

本当に必要な情報は適切に共有しつつ、必要のない個人情報まで安易に共有されることを防ぐことができると思う。

それから最後に、学校として、児童生徒やその保護者に適切な対応をしていくためには、その前提となる情報が正しいものであることが不可欠である。

情報の共有や利用に当たっては、内容についてきちんと事実確認を行うなど、正しい情報に基づいて対応していただきたいと思う。児童生徒や保護者の学校に対する信頼や安心の確保は、教育を行う上での欠かせない条件である。

この事案について、今後あるべき児童生徒の個人情報の把握、管理、共有時のルールについて、教育委員会として検証して、改善につなげていただきたいと考えている。

この事案については、教育長、市教育委員会にも伝えているので、検討をいただくよう、是非ともよろしくお願いしたい。

(3) その他

●村岡知事

本日は、「令和9年度重点取組方針」(案)についてお諮りし、御了解をいただいた。また、「令和8年度の重点取組方針」の取組状況、「高等学校教育の改革の推進」、「学校における働き方改革の推進」について協議させていただいた。

御了解をいただいた「令和9年度重点取組方針」につきましてもは、皆様からいただきました御意見、御提言も踏まえながら、来年度の具体的な取組内容等について、これからさらに検討を進めてまいる。

また、「高等学校教育改革の推進」と「学校における働き方改革」については、

引き続き、知事部局と教育委員会との十分な情報共有を図っていきたいと考えているし、我々もしっかり対応していきたい。

皆様方におかれても、引き続き、教育委員としてのお立場から、御理解、御協力を賜ることをお願い申し上げ、まとめの挨拶とさせていただきます。

6 閉会（事務局）

（以上）

※ 上記については、事務局がまとめたものです。